

(24) セルリー

(ア) 病害

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
モザイク病 全生育期間	耕種的防除 1. ほ場周辺・ハウス内の雑草を除去する。
軟腐病	耕種的防除 1. 畦間チューブかん水は頭上かん水に比べ発病が抑制される。 薬剤防除 1. 薬剤耐性情報（詳細は 261~277 ページ参照） オキシリニック酸剤感受性低下菌：出現している地域がある。 2. 茎葉散布
斑点病	耕種的防除 1. チューブかん水は頭上かん水に比べ発病が抑制される。 薬剤防除 1. 薬剤耐性情報（詳細は 261~277 ページ参照） チオファネートメチル剤耐性菌：道内で発生が確認されている。 2. 茎葉散布

(イ) 害虫

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
ヨトウガ 6月中旬～ 及び8月中旬 ～	薬剤防除 1. 茎葉散布 第1回発生：6月中旬～7月中旬 第2回発生：8月中旬～9月中旬

(ウ) クリーン農業技術（病害虫防除関係分）（セルリー）

○化学的防除の効率化

- ・ヨトウガに対する初期被害を見逃さない適切な薬剤散布の実施
- ・斑点病対策として、葉搔きによるリセット効果を利用した経済的被害許容水準以下を目指した薬剤防除の実施
- ・軟腐病対策として、葉搔き直後の薬剤散布の実施

○物理的防除

- ・光反射フィルムや防虫ネットによる害虫の侵入阻止

○生物的防除

- ・生物農薬（B T 剤等）の利用による害虫防除

○耕種的防除

- ・連作をしない
- ・モザイク病(アブラムシ) 対策としてハウス内の除草の徹底
- ・チューブ灌水の利用による斑点病・軟腐病・腐敗病の発病抑制

※注釈

- 斑点病に対する葉掻きによるリセット効果を利用した経済的被害許容水準以下を目指した薬剤防除

斑点病によるセルリーの被害は、下図のように発病度が高まるにつれ全重や調製重が減収するが、特に多発すると出荷対象の中心葉まで発病が進むため、被害が大きくなる。この相関図に約2%の減収分と想定される防除経費を当てはめると、斑点病の防除目標となる経済的被害許容水準は発病度で概ね 25 程度となる。斑点病の発生は育苗時から認められ、セルリーの栽培期間を通じて常に蔓延の危機にさらされている。そのような中で、定植約一か月後に実施される葉掻き作業の際に、罹病葉が除去されることによるリセット効果が期待できる。育苗期から葉掻きまでの栽培前半期に多発させないように管理して、葉掻きによるリセット効果で経済的被害許容水準以下(目安は中心葉に病斑が生じない程度)になるようにし、その後その水準を維持するよう薬剤散布を行うことで、減化学農薬栽培が可能となる。